

Business Report 2006

BUFFALO

株式会社 **メルコホールディングス** <http://melco-hd.jp/> (証券コード6676)

本 社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 (カミヤビル) TEL 052-251-6891 (代) FAX 052-241-7979

株式会社 **バッファロー** <http://buffalo.jp/>

本 社 〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 TEL 052-619-1811 (代) FAX 052-619-1800

東京支店 〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-5 (栄太楼ビル) TEL 03-3242-7777 FAX 03-5203-8551

本社分室 〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 (カミヤビル) TEL 052-251-6891 (代) FAX 052-241-7979



会社の方向性

次代の成長を確かなものに

ユーザニーズの具現化をめざして

パソコンやインターネットの普及により、企業活動や生活スタイルは劇的に変化してきました。今後、パソコンとテレビの融合による「デジタルホーム」の普及や、「ユビキタスネットワーク社会」の実現に向け、変化のスピードはさらに増すものと考えられます。

メルコグループは、変化する社会の中で、「ユーザニーズの具現化」をモットーに、人々の生活や企業活動がより安全で便利になるよう、新しい製品やサービスを提供し、社会の発展に貢献してまいります。

売上、利益ともに過去最高を更新

2006年3月期の当社グループの業績は、株式会社バッファローを中心に国内外ともに好調に推移しました。メルコグループの製品群は、USBフラッシュメモリやハードディスク製品など、市場の高い成長性に支えられ、周辺機器市場の主要13品目でシェアNo.1を占めるなど順調に売上高を伸ばしました。なかでも、無線LAN製品では、電波の送受信能力が高いハイパワーモデルがユーザから高い評価を得たことにより、市場シェアを大きく伸ばしました。これら高いシェアを背景とした強力な資材調達力や、たゆまぬコストダウンの成果に加え、高い技術力に裏打ちされた高付加価値製品群の販売が順調に推移し、当期は売上高、利益ともに過去最高を記録しました。

BCN調べ

デジタルホームの普及に向けて

今後、デジタルホームが普及すると、テレビやパソコンなどで録画・録音した映像や音楽を、ホームネットワークで自由に呼び出して楽しむ世界が広がります。そこでは、当社が得意とする無線LANやネットワー



写真：読売新聞提供

株式会社メルコホールディングス
代表取締役社長 牧 誠

ク接続のハードディスク、さらにメディアプレーヤなどが、大きな市場になるものと予測されます。

当社はネットワークとストレージ両分野の技術を持つ世界中でも数少ない企業であり、その特徴を生かしたネットワーク接続のハードディスクなど、オリジナリティ豊かな製品を牽引車として、国内市場の育成と同時に海外市場をもより力強く開拓していく方針です。

さらなる成長に向け社内体制を整備

当社グループは2006年5月、グループの中核的事業会社である株式会社バッファローの組織を一新しました。今回の改変により、着実に収益を上げていく既存製品分野と、劇的な変化を求める市場開発型の事業分野を明確に分離しました。コスト競争力やきめ細かなアイデアが重要な既存製品分野と、多少の無駄をいとわず新しいことに挑戦する分野では、取り組み方がまったく異なるからです。これにより社会の変化・発展をリードする企業体制が確立しました。当社グループはこれからも、「ユーザニーズへの先見性とそれを具現化する技術力」を武器に、さらなる事業領域の拡大と企業価値の最大化をめざして前進してまいります。皆さまにはよりいっそうのご支援をお願い致します。



ホームエンターテインメントの時代がいま始まる

いつでも、どこでも、自由自在に動画を楽しむ

デジタルホームとは、テレビやパソコンがホームネットワークにつながり、テレビ放送や録画された動画や音楽が、いつでもどの部屋からでも自由に楽しめる家庭環境のことを言います。最近では、テレビチューナ付きのパソコンが人気を呼び、パソコンでテレビを見る人々が増える一方、インターネットで配信される映画やスポーツ番組を楽しむ人々も、着実に増えています。パソコンやその周辺機器を活用したデジタルホームは、もう身近なものになりつつあります。

ビデオ・オンデマンド・サービスが本格化の兆し

ビデオ・オンデマンド・サービスとは、インターネットを通じて映画やドラマなどを配信するサービスのことで、これを利用することにより、レンタルビデオ店に出かけなくても、自宅に居ながらにしていつでも好きな映画を見ることができます。

多くのビデオ・オンデマンド・サービスがすでに開始されており、すでにお使いになった方もおられることと思います。しかし、これまでインターネットで配信される映画は、著作権保護の関係から旧作に限られていました。ところがアメリカでこの4月から、新作映画のDVD発売と同時に、ビデオ配信サービスが開始されることになったのです。そのことは最大の配給元であるハリウッドが、ビデオ・オンデマンドのビジネスに積極的に取り組むようになったことを意味します。ビデオ・オンデマンド市場は新作映画の登場により、今後、爆発的に拡大していくものと予測されます。

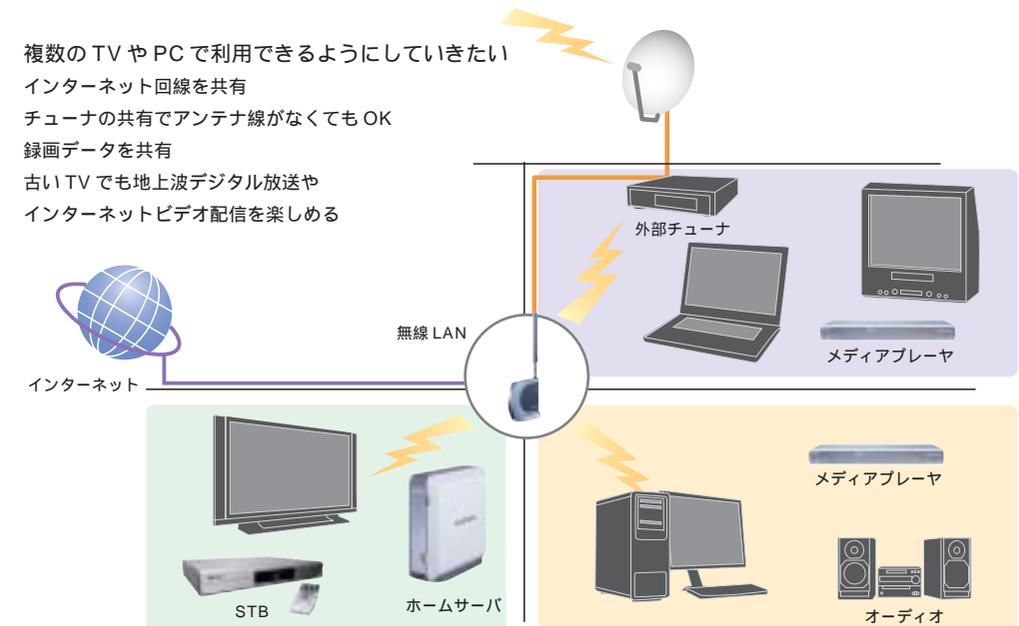
日本でもすでに数多くのビデオ配信サービスが立ち上がっています。CM入りで無料のものや、映画1本300円程度とレンタルビデオと同等の料金で配信するものなどが主流です。近い将来、新作映画が配信されるようになると、デジタルホーム市場が一気に拡大するものと期待されています。

デジタルホームの普及は2007・2008年から本格化

デジタルホーム市場が成長していくには、ビデオ・オンデマンド・サービスのような新しい使い方が普及すると同時に、下記のような技術の開発が要求されます。

- 1 「ストレスなく接続できる送受信能力の高い無線LANシステム」
- 2 「使い方が簡単で安全性の高いセキュリティ技術」
- 3 「効率のよい伝送が可能な画像圧縮技術」
- 4 「ネットワーク上の動画データを共有するための管理技術」

これらは当社グループの最も得意な技術領域です。すでにそれらの要素技術は開発されており、一部の先進的なユーザがそれを利用しています。今後広く一般のユーザに普及していくには、技術の標準化が進んでいかねばなりません。そうした動きが本格化するのには、2007年または2008年ころからと予測されており、デジタルホーム市場は今まさに大きく花開こうとしています。



事業概要

■ メモリ製品 売上高：385億79百万円

メモリモジュールはパソコンの中に装着しプログラムやデータ処理能力を増強する部品です。メモリ製品には、メモリモジュールの他に手軽にデータが持ち運べる「USBフラッシュメモリ」や、デジタルカメラでお馴染みの「SDメモリカード」や「コンパクトフラッシュ」などがあります。当期はUSBフラッシュメモリを中心としたフラッシュメモリ製品が大幅に売上を伸ばしましたが、メモリモジュールの単価下落があり、メモリ全体の売上高は前年同期比2.3%増となりました。



■ ストレージ製品 売上高：407億93百万円

ストレージはデータを保存する外部記憶装置です。当期はハードディスク製品の売上高が大きく伸びました。その要因は、動画利用が進み記憶容量が増加し続けたこと、セキュリティを強化した新製品を相次いで投入したこと、ネットワークハードディスクで法人向けの新たな市場を創造したこと、海外で新しい販路を切り開いたことなどによります。CD-RWやMOドライブの市場縮小がありましたが、ハードディスク製品の市場が大きく拡大し、売上高は前年同期比9.2%増となりました。



33.3%

18.2%

35.2%

13.3%

(2006年3月期連結実績)

■ ネットワーク製品/ブロードバンド 売上高：210億81百万円

複数のパソコンをつなぐネットワークの代表的な製品には、LANアダプタ、ハブ、ルータなどがあります。当期はブロードバンド製品であるハイパワー・高性能の無線LAN製品が好調に推移しました。特に、初心者でも簡単に無線LANの設定ができる「AOSS™」システムが、2大ゲーム機メーカーに採用され普及の大きな弾みになりました。こうしたことによりネットワーク製品全体の売上高は、前年同期比5.1%増となりました。



■ その他の製品 153億86百万円

その他の製品にはデジタルホーム関連製品やサービス事業が含まれます。デジタルホーム製品には、テレビ放送をパソコンに読み込む「TVキャプチャ」、パソコンの映像や音楽をテレビで楽しむ「メディアプレーヤ」などがあります。こうした製品に加え、前期から取り扱いを開始したサブライ製品、法人向けの液晶ディスプレイなどが伸び、売上高は前年同期比36.0%増を記録しました。



高性能を簡単・気軽に・もっと使いやすく それが私たちの開発コンセプト

世界が認めたバッファローの技術力

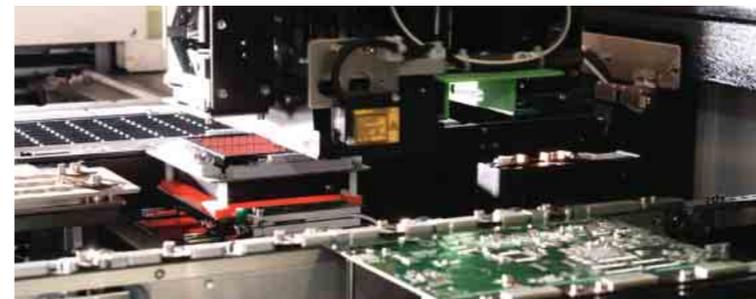
パソコンに欠かせないメモリモジュール。現在、全世界で出荷されている大部分のノートパソコンには、世界標準規格に準拠したメモリモジュールが搭載されています。この世界標準規格を策定しているのが、EIA（米国電子機械工業会）の一部門であるJEDECです。バッファローはJEDECの重要メンバーで、バッファローの基盤設計が世界標準規格として採用されています。すでにバッファローは、次世代の主力メモリとなるDDRⅢの標準規格策定に携わっています。

初心者でも簡単を実現した「AOSS™」

ホームネットワークは便利で快適な暮らしを実現するものですが、すべての機器をケーブル接続したのでは、家中ケーブルだらけになりかねません。その問題を解決するのが「無線LAN」です。しかし従来の無線LANは、「接続設定」や「セキュリティ設定」が難しいのが難点でした。それを「初心者でも簡単」にしたのが、バッファローが開発した「AOSS™」です。

バッファローの簡単設定システム「AOSS™」なら、「AOSS™」に対応した機器のボタンを押すだけで、自動的に設定が行えます。すでに大手家電メーカーの製品に次々と採用されているのをはじめ、SONY

の携帯型ゲーム機「プレイステーション・ポータブル」、さらには任天堂のゲーム機「ニンテンドーDS®」などに搭載されています。これからもバッファローはデジタル家電やゲーム機への搭載を推進し、便利で安全なネットワーク社会の実現をめざしていきます。



ユニークな開発思想が新しい市場を開拓

ネットワーク接続の大容量ハードディスクとして国内外で高い評価を受けている「TeraStation」には、RAID 5という高度な技術が搭載されています。RAID 5とは、ハードディスクが故障した場合でも、データを元通りに復旧する

技術で、これまでは24時間稼働の金融機関など、データの安全性が要求される大企業の基幹システムなどで使用されてきました。

こうした高度な技術を、バッファローは小規模オフィスに必要な機能や性能に特化し、ネットワーク接続のハードディスクに搭載しました。今日では、データの安全性に対する要求が大きくなっており、専門技術者がいなくても利用可能な「TeraStation」は小規模オフィスに新しい市場を切り開いています。「TeraStation」は、このユニークな開発思想が高く評価され、国内市場でヒットしたのをはじめ、海外ではストレージ製品拡販の原動力となっています。

国内外で高い評価を獲得

バッファローのパソコン周辺機器は、日本国内をはじめ海外においても高い評価を得ています。2005年における内外パソコン専門誌の受賞数は220を超え、2006年も1月から5月初旬まで、すでに35の賞を受賞しています。また、受賞国も日本、アメリカ、イギリス、ドイツなど、13の国や地域におよんでおり、バッファロー製品が広く世界の国々で愛用されていることを物語っています。バッファローの受賞製品について、詳しくは当社ホームページ「栄光の殿堂」をご覧ください。



2006 / 5

受賞国：イギリス

媒体名：PC Pro

受賞名：Recommended

受賞作：ホームサーバ機能搭載ネットワーク接続ハードディスクLinkStation

型番：HS-D300GL

高性能を簡単・気軽に それが私たちの開発コンセプト



TeraStation

デジタルホームの普及に向けた新製品を次々と投入

テレビやパソコンといった垣根を越えて、映像や音楽が楽しめる本格的なデジタルホームの時代が、もう目の前に迫っています。バッファローではパソコンの動画や音楽データをテレビで楽しむための「ネットワークメディアプレーヤ」など、デジタルホーム製品の充実に力を入れています。高音質モデルの「リンクシアター」や、DLNAガイドライン対応機器と接続できるモデルなど、デジタルホームの普及をめざし、様々な提案をしています。無線LAN製品では、電波の送受信能力が高く家中どこでも通信できるハイパワーモデルや、高速で障害物に強いモデルなどを発売しました。また、大量の映像を記録できるホームサーバ機能をもつネットワーク接続ハードディスクなどを発売し、圧倒的な評価を得ています。

世界初 ハイビジョン映像配信サービス用 専用受信機を開発

地上波デジタル放送によるハイビジョン放送の普及や、インターネットを利用したビデオ・オンデマンド・サービスが立ち上がる中で、2006年6月から、オン・デマンド・ティービー社がNTT東日本・西日本のフレッツ加入者を対象に、インターネット経由で商用としては世界初となるハイビジョン映像の配信を開始します。

これに合わせて、バッファローはオン・デマンド・ティービー社と協業し、専用受信機「セットトップボックス：STB」を開発しました。このSTBは最新の動画圧縮技術に対応しており、またインターネットの最新規格であるIPv6も制御が可能と、バッファローの技術力がいかんなく発揮された製品として、高い評価をいただいています。



専用受信機 STB



任天堂と無線LAN分野で提携

バッファローと任天堂は世界中のゲームユーザが、無線で簡単にゲームが楽しめる環境を提供するため、次の3分野で協力をしています。

1. バッファローが提唱するプッシュボタン方式の無線LAN簡単設定システム「AOSS™」を、「ニンテンドーDS®」に搭載。
2. 任天堂が発売する簡単アクセスポイント「ニンテンドーWi-Fi USBコネクタ」を共同開発し、国内および海外で発売。
3. 任天堂が日本全国のゲーム販売店など約1,000カ所でサービスを開始した「ニンテンドーWi-Fiステーション™」用アクセスポイントの製品を開発。

この任天堂との提携により、バッファロー無線LAN製品の使いやすさが広く一般家庭に知れわたり、デジタルホームの普及に大きな弾みがつくものと期待されています。

地球環境保護への取り組みを強化

バッファローでは、環境保全活動の方針を定めた「バッファロー環境宣言」を行い、企業活動にともなう環境負荷の低減に努めています。

2001年1月には、従業員が環境改善に取り組むための目標として、ISO14001を取得しました。また、グリーン購入法に基づくパソコン周辺機器の製品化を積極的に推し進める一方、グリーン購入法適合商品の情報を公開し、カタログなどではマークによる適合品表示を行っています。

2006年7月から施行されるEU圏内の「RoHS指令」に関しても、鉛や水銀など特定6物質の排除に努め、鉛フリーのメモリモジュールをはじめ環境にやさしい液晶ディスプレイやビジネススイッチなどを発売しています。さらに、大量導入ユーザ向けに、梱包を最小限に抑えた省資源「ECOメモリパッケージ」による販売を行っています。このように、メルコグループはこれからも企業活動と環境との調和をめざしていきます。

EUが発令した、特定有害物質使用禁止指令で、EUへの輸出品に適用されます。



20.1型ワイド デジタル/アナログTFT



「ユーザニーズの具現化」が、業績向上の原動力

2006年3月期は、売上高、当期純利益ともに過去最高を記録しました。

当期の業績は、主要事業会社である株式会社バッファローを中心に、国内外とも好調に推移しました。当グループは当期も市場ニーズに的確に対応する新製品を次々と投入し、USBフラッシュメモリ、外付ハードディスク、無線LANなど、周辺機器市場の13カテゴリでシェアNo.1を確保しました。こうした成果により、当期の売上高は前年同期比8.9%増の1,158億39百万円、営業利益は14.2%増の63億9百万円、経常利益は17.0%増の64億56百万円、当期純利益は49.5%増の36億77百万円となり、売上、利益ともに最高額を更新しました。

なお、当期は発行株式総数の11.5%に当たる300万株の自己株消却を行い、1株あたりの価値を大きく高めました。また、同時に当社は同族会社からはずれ、留保金課税の負担がなくなりました。これらにより、株主還元と会社の当期純利益の増加を同時に果たすことができました。この結果、当期末の総資産は516億97百万円、株主資本は251億30百万円、1株当たり株主資本は1,085円74銭、1株当たり当期純利益は143円66銭となりました。

また、1株あたりの配当は期初の予想に対し5円増配し期末で15円、通期では25円となりました。

BCN調べ

2007年3月期は、国内および海外での市場拡大をはかります。

今後のパソコン関連市場は、マイクロソフト社の新OS「Windows Vista」の発売による需要喚起や、情報化投資が続く法人需要により、おおむね堅調に推移するものと思われます。また、地上波デジタル放送や光回線の普及、高画質（ハイビジョン画質）のビデオ配信サービスが開始されるなど、デジタルホームの普及に拍車がかかるものと思われます。

こうした状況を踏まえ、当社グループは無線LANやネットワーク接続ハードディスクなど、デジタルホーム関連製品の市場拡大に注力するとともに、国内法人市場顧客の獲得、さらには海外市場でのいっそうの拡販をめざします。また、こうした成長戦略を支えるため、新たな製品ラインアップの拡充・強化をはかるとともに、ネットワーク、メモリ、ストレージなどの既存分野で、よりいっそう製品力・コスト競争力を強化し、安定した収益源の確保に努めます。

これにより、2007年3月期は売上高1,380億円（前年同期比19.1%増）経常利益68億円（同5.3%増）、当期純利益40億円（同8.8%増）を見込んでいます。

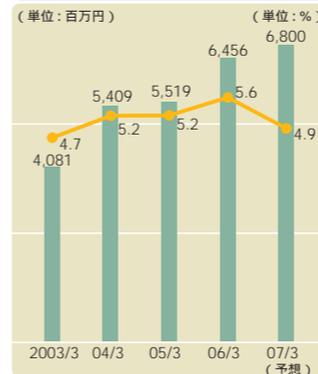
連結売上高

（単位：百万円）



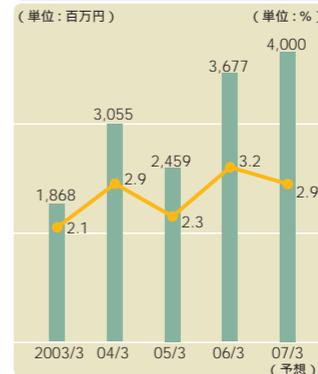
連結経常利益と 連結売上高経常利益率

（単位：百万円）



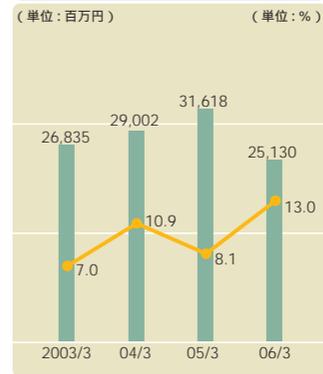
連結当期純利益と 連結売上高当期純利益率

（単位：百万円）



連結株主資本と 連結株主資本当期純利益率

（単位：百万円）



(見直しに関するご注意) 上記の業績予測は現時点で得られる情報に基づいて算定されたものであり、多分に不確実な要素を含んでいます。従って、実際の業績は業況の変化により業績予測と異なる場合があります。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期 2006年3月31日	前 期 2005年3月31日
(資産の部)		
流動資産	43,953	46,826
固定資産	7,743	8,407
有形固定資産	1,732	1,640
無形固定資産	109	76
投資その他の資産	5,901	6,690
資産合計	51,697	55,233
(負債の部)		
流動負債	25,630	22,684
固定負債	935	928
負債合計	26,565	23,613
(少数株主持分)	1	2
(資本の部)		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	1,927	11,677
利益剰余金	21,955	18,834
其他有価証券評価差額金	479	364
為替換算調整勘定	210	255
自己株式	20	2
資本合計	25,130	31,618
負債・少数株主持分及び資本合計	51,697	55,233

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	当 期 自2005年4月1日 至2006年3月31日	前 期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
資本剰余金期首残高	11,677	11,677
資本剰余金減少高 / 自己株式消却額他	9,750	0
資本剰余金期末残高	1,927	11,677
利益剰余金期首残高	18,834	16,849
利益剰余金増加高 / 当期純利益	3,677	2,459
利益剰余金減少高 / 配当金他	556	474
利益剰余金期末残高	21,955	18,834

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 自2005年4月1日 至2006年3月31日	前 期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
売上高	115,839	106,353
売上原価	98,376	91,563
販売費及び一般管理費	11,153	9,266
営業利益	6,309	5,523
営業外収益	236	247
営業外費用	90	251
経常利益	6,456	5,519
特別利益	33	77
特別損失	312	781
税金等調整前当期純利益	6,177	4,815
法人税、住民税及び事業税	2,465	2,384
法人税等調整額	34	31
少数株主利益又は少数株主損失()	0	2
当期純利益	3,677	2,459

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当 期 自2005年4月1日 至2006年3月31日	前 期 自2004年4月1日 至2005年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	239	6,564
投資活動によるキャッシュ・フロー	75	2,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,992	422
現金及び現金同等物に係る換算差額	310	2
現金及び現金同等物の増減額(減少は)	7,846	9,042
現金及び現金同等物の期首残高	18,082	9,035
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高		4
現金及び現金同等物の期末残高	10,235	18,082

メルコグループ

当社グループは持ち株会社である株式会社メルコホールディングスを中心に、事業会社である株式会社バッファローをはじめとする12社の連結子会社により構成されています。

株式会社メルコホールディングス

商号	株式会社メルコホールディングス (英文表記) MELCO HOLDINGS INC.	役員(2006年6月29日現在) 代表取締役社長 牧 誠 専務取締役 斉木 邦明 常務取締役 牧 博道 取締役 山口 英利 取締役 牧 廣美 取締役 津坂 巖 取締役 横江 有道 常勤監査役 小林 清史 監査役 西川 俊男 監査役 川島 譲 監査役 隅 朝恒
設立	1986年(昭和61年)7月1日	
資本金	10億円	
事業内容	メルコグループの純粋持株会社 傘下事業会社の株式を所有し、事業活動支援・経営指導を通じて統括管理を行う。	
従業員数	46名、メルコグループ連結756名	
グループ企業	会社数12社(国内7社・海外5社)	

株式会社バッファロー

商号	株式会社バッファロー	役員(2006年6月29日現在) 取締役会長 牧 誠 代表取締役社長 斉木 邦明 常務取締役 山口 英利 取締役 豊岡 誠史 取締役 西岡 孝行 取締役 松尾 民男 取締役 続木 政直 監査役 小林 清史 監査役 津坂 巖 監査役 小出 隆志 監査役 隅 朝恒
創業	1975年(昭和50年)5月1日	
設立	1978年(昭和53年)8月5日	
資本金	64億円	
事業内容	パソコン・ブロードバンド関連機器の開発・製造・販売および関連サービスの提供	
従業員数	367名	

事業所			
本社	〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15	TEL.052-619-1811	FAX.052-619-1800
東京支店	〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-5 栄太楼ビル	TEL.03-3242-7777	FAX.03-5203-8551
本社分室	〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル	TEL.052-251-6891	FAX.052-241-7979
名古屋支店	〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル	TEL.052-249-6600	FAX.052-249-6601
大阪支店	〒542-0012 大阪市中央区谷町9-1-18 住友生命谷町ビル	TEL.06-6191-1511	FAX.06-6191-1510
仙台営業所	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-22 宮城野センタービル	TEL.022-291-0311	FAX.022-298-9470
福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-12-1 アバンダント95	TEL.092-477-3711	FAX.092-477-3755
札幌営業所	〒060-0031 札幌市中央区北一条東1-4-1 サン経成ビル	TEL.011-200-8150	FAX.011-200-8151
テクニカルサービスセンター	〒457-8570 名古屋市南区豊田3-3-5	TEL.052-698-2455	FAX.052-698-2099

関連会社

日本 シー・エフ・デー販売株式会社

インターネット関連機器・コンピュータ周辺機器の販売
〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15
TEL 052-619-1311 FAX 052-619-7785

株式会社バッファロー物流

製品の梱包・出荷業務
〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内33号棟
TEL 052-883-3035 FAX 052-883-3042

株式会社バッファローリース

インターネット関連機器のレンタルおよびリース
〒103-0027 東京都中央区日本橋1-2-5 栄太楼ビル
TEL 03-5203-8199 FAX 03-5203-8551

オリーブネット株式会社

インターネット関連機器およびコンピュータ周辺機器の販売
〒456-0023 名古屋市熱田区六野2-1-3 中京倉庫内
TEL 052-882-3302 FAX 052-882-3302

株式会社メルコパーソナルサポート

人材派遣事業
〒460-0011 名古屋市中区大須4-11-50 カミヤビル
TEL 052-251-6823 FAX 052-241-7979

株式会社エム・ティー・エス

インターネット関連のサポートおよびサービス
〒457-8570 名古屋市南区豊田3-3-5
TEL 052-698-3076 FAX 052-698-3157



社名の由来

「メルコ」は「牧技術研究所」を意味しています。

「MELCO」のMは創業者でメルコホールディングスの代表取締役社長である牧誠の姓、Eは技術力の「Engineering」、Lは研究所の「Laboratory」、COは会社の「Company」の頭文字をとり、創業の1975年以来、社名として使用しています。

「バッファロー」はパソコン周辺機器の「プリンタバッファ」に由来しています。

メルコが1982年に発売した内蔵型プリンタバッファは、印刷中でもパソコンが使える周辺機器として大ヒット製品となり、当社躍進の基盤となりました。その後、当社製品のブランド名を一般公募し、採用されたのが「BUFFALO」です。プリンタバッファを猛牛の「バッファロー」に重ね合わせ、たくましく成長する当社のイメージを表現するブランド名として採用されました。

メルコグループのあゆみ

1978年	8月	音響機器製品の製造・販売を目的としてメルコを設立
1981年	7月	パソコン周辺機器市場へ本格参入
1982年	11月	プリンタ内蔵型のプリンタバッファを発売
1986年	7月	名古屋市天白区に(有)バッファロー(現(株)メルコホールディングス)を設立
1988年	10月	わが国初のEMSボード(メモリ)を発売
1991年	10月	(株)メルコ(現(株)バッファロー)が日本証券業協会へ店頭登録
1992年	8月	LANを発売
1992年	1月	名古屋市南区に技術開発拠点「ハイテクセンター」(現(株)バッファロー本社)を開設
1994年	2月	ハードディスクを発売 パソコン周辺機器の総合メーカへ
1995年	1月	(株)メルコが名古屋証券取引所市場第二部に株式を上場
	8月	(株)メルコが東京証券取引所市場第二部に株式を上場
1995年	9月	(株)メルコが品質保証の国際規格ISO9001の認証を取得
1996年	9月	(株)メルコが東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場
1999年	1月	無線LAN市場に参入、「AIRCONNECT」を発売
2000年	10月	DDR対応ノートパソコン用メモリの世界標準規格を開発
2001年	1月	(株)メルコが環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得
2003年	5月	(株)バッファローが(株)メルコホールディングスに商号変更、名古屋市中区に本店を移転
	10月	(株)メルコが(株)バッファローに社名変更、名古屋市南区に本店を移転
	10月	(株)メルコホールディングスと(株)バッファローが株式を交換 持株会社体制に移行
	10月	(株)メルコホールディングスが東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部に株式を上場
2004年	1月	デジタルホームソリューションズ事業部を新設
2005年	3月	NTT東西の「オンデマンドTV」に専用セットトップボックスの供給を開始
	7月	(株)バッファローが名古屋市南区に「テクニカルサービスセンター」を開設

メルコホールディングス株式情報(2006年3月31日現在)

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
株主確定基準日	議決権行使株主 3月31日 期末配当金受領株主 3月31日 中間配当金受領株主 9月30日
上場証券取引所	東証・名証一部
証券コード	6676
発行済株式数	23,125,773株(自己株式控除後 23,118,583株)
株主数	11,113名(2006年3月31日現在)
1単元の株式数	100株
公告の方法	電子公告 http://melco-hd.jp/koukoku/
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店 株式に関するお手続きについてご不明な点、確認したい点などがある場合は、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。 TEL 0120 - 232 - 711 (土・日・祝祭日を除く9:00から17:00 通話料無料) 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っています。 TEL 0120 - 244 - 479 (通話料無料) http://www.tr.mufg.jp/daikou/
幹事証券会社	(主) 大和証券 SMBC (副) 野村證券、みずほインベスターズ証券、日興コーディアル証券